

『住んでみて感じた諏訪市の魅力』

「かなしくなったら諏訪湖をみるといいよ」母のその一言が諏訪で暮らすきっかけだったのだと、揺れる湖面を眺めながら思った。

私は安曇野市の出身なので、諏訪にはJターンで就職したことになる。諏訪は母が学生時代を過ごした街であり、母の生家が岡谷市にあるため、ちいさな頃からよく訪れていた。

人より少し長い学生生活を終え、いよいよ現実と折り合いをつけて生きていかなければと思ったとき、思い浮かんだのは母のあの言葉だった。「かなしくなったら諏訪湖をみるといいよ」

諏訪はほどよい街だ。生活に必要なすべてのものが揃っているとは言わないが、必要なものは手の届くところにある。そして、なにより諏訪湖がある。私は湖に一番近い場所に住もうと、湖岸通りという街で暮らすことを決めた。

Jターンをするということは、自分で居場所を決めて、その場所に根を張って生きていくということだ。毎朝出勤時に通るバス停であいさつとともに振られる手、通りがけに軽トラから鳴らされるクラクション、顔なじみの洋菓子店でおまけしてもらうパン、そういったひとつひとつのことが根となり、少しずつ自分の足元が確かになっていく感覚がある。まだずっと先のことになるだろうが、いつか私も誰かがここに根を張るためのご縁になればいいと思っている。

